

## 科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 21 年 12 月 8 日（火）12:15～12:45
- 場 所 合同庁舎 4 号館 7 4 2 会議室
- 出席者 菅科学技術政策担当大臣、津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官

### ○ 議事概要

#### 議題 1. 「平成22年度科学技術関係予算の編成に向けて(案)」について

##### <相澤議員説明>

- (菅 大臣) ◇ いろいろなご意見、優先度判定ということで、ご苦労さまでした。
- ◇ この内閣は、ご承知のように、いろいろこれまでにないやり方をとっているの、あるいは皆さん方にもいろいろとご心配をおかけしているところがあるかもしれない。特に事業仕分けという形でいろいろな意見が出され、私も、いろいろな立場を兼ねている関係で、今日ここにいるのは科学技術担当大臣ということですが、ある場面では事業仕分けの親元の行政刷新会議のメンバーでもあったり、また国家戦略室担当でもあるものだから、ちょっと表現しにくいところもあるが、基本的には、科学技術が日本にとって極めて重要になっていることはもちろん言うまでもないことだし、鳩山内閣もその基本的な方針。
  - ◇ その中で、従来からやっておられる事業仕分けという形で、より有効な形で、限られた財源を使うということについて、皆さん方がいろいろな意見をきちんと表現されることは大変重要なことだと思っている。
  - ◇ そういう中で、今回の場合、今ここに2つの事例も出ており、もうご承知だと思うが、今の政府の中で行われている事業仕分けについての状況を簡単にご説明すると、事業仕分けそのものはああいう形で行われたわけですが、あれがそのままストレートに決定になるわけではない。今は、それぞれの案件について、予算要求をした官庁、例えば、スパコンであれば文科省と財務省との間で、その事業仕分けの意見を一般的には尊重することになっているが、場合によっては、これだけはということを含めて意見調整をしているというのが現段階。最終的には、そこでさらに予算関係閣僚委員会、ここにも私は出ておりますけれども、そういう場が上がってきて協議する。そういう段階を経て正式な決定になる。そんなことで、皆さん方の意見が、現時点で各方面に出されると聞いているので、財務省なり文科省なり、あるいは関係省庁の考え方にどのように反映されるかというのが、現状の状態。
  - ◇ それと、せっかくの機会ですから、多少一般的なことを申し上げると、これまで総合科学技術会議が、科学技術予算についていろいろな形で、影響という表現がいいのか、何らかの役割を果たしてこられているわけだが、今後のあり方として、今のよう形が適切なのか、もっと直接的に何か予算要求に資するようなやり方が適切なのか、逆に、余りお金そのものではない形で何か関与されるのが適切なのか、ちょっと私にはまだよくわからないので、また時間がなかなか私自身十分にとれなくて、今年度のこの問題は今までのルールの中で対応しているが、これから先の考え方としてどういうことを考えればいいのか、また改めていろいろご意見をお伺いさせていただきたい。
  - ◇ 率直に言って、この会議そのものに対して、大変偉いばかりで、我々関与している者の声が届かないみたいな、そういう声もあったり、ただ、どういう形が、一番、

科学技術の振興のためにいい判断ができる形なのかとか、幾ら何でも、単に投票するわけにいかないだろうから、そこがなかなか考え切れないので、外国のいろいろな事例、競争的な資金と基本的な資金の配分比率とか、そういうことも含めて、一部には、競争的な資金は大変重要だけれども、やはり基礎的な資金がある程度しっかりしないと、逆に基礎的な部分がそこで多くの研究者が基礎的な費用の中で、まず活動できるようにしなきゃいけないんじゃないかとか、いろいろな意見が個々には来ているが、そんなことも含めて、今日の場合を超えた問題かもしれないが、ぜひ、皆さん方の、今年の問題と同時に、これから、今後のそういった科学技術の進め方、あるいは予算というものをどう考えればいいのか、またいろいろとお聞かせいただきたいと思っている。そんなことで、とりあえず私のほうから。

(相澤議員) ◇ 今、大臣がご発言いただいたことについては、総合科学技術会議の議員も具体的な優先度判定を進めながら、常に、問題点はここだとか、いろいろなことを議論しておりますので、改めてそういう場を設定していただければと思う。

◇ それでは、本日は、ただいまご説明いたしました全体を総合科学技術会議の本会議に提出することをご了承いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(相澤議員) ◇ ありがとうございます。

## 議題2. 「平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について」について

<相澤議員説明>

(相澤議員) ◇ これは事業仕分けの判定と総合科学技術会議の優先度判定とどういうところで比較できるかというところを整理したもので、特に次世代スパコンは、総合科学技術会議としては、必要な改善等を行いつつ推進すべきであるという判定にしており、詳細な見解づけの中には、先ほど奥村議員から説明がありましたようなことが強く出されているなど、科学技術のサイドから見たときの、非常に明快なコメントが付されております。

◇ あとは、それぞれいろいろな違いがあるが、それぞれの立場、観点の違いから起こってくるサイドに見られるもののがかなりある。それを一目瞭然にできるようにしたものである。

(以上)